

2014 春季生活闘争討論集会

月例賃金にこだわりを持って全力で闘おう！

～底上げ・底支え・格差是正に取り組もう～

連合福島は12月7日（土）福島市の杉妻会館において、各構成組織や加盟組織の代表者など約150名が出席し、「2014春季生活闘争討論集会」を開催した。

主催者を代表して冒頭、影山道幸連合福島会長は「日本の国において非正規労働者数は働く人の1/3以上を占めており、ワーキングプアと呼ばれる年収が200万円以下の人が1,100万人もいる。それらの方々の待遇を改善していくための対策は、大変重要な課題となっている。連合福島として『安心・安全社会の構築』と『働くことを軸とする安心社会の実現』に向け、働く仲間の声を結集し、社会に訴える行動を展開しなければならない。さらに、連合に課せられた社会的使命を果たすため、今次春闘は特に月例賃金にこだわりを持ちながら、全力で闘うことを誓い合い共に頑張ろう。」と挨拶した。



主催者を代表して挨拶する影山道幸連合福島会長



ご講演頂いた連合須田孝総合労働局長

「底上げ・底支え」「格差是正」に全力をあげる考え方が示された。その他、闘いの進め方等、闘争の要旨について一通り説明を頂き、討論集会は閉会となった。

なお、連合福島2014春季生活闘争方針は来年2月の執行委員会で確認予定となっている。

討論集会では連合本部から須田孝総合労働局長にお越し頂き、連合2014春季生活闘争方針について講演を頂いた。今次春闘の基本的な考え方では、すべての構成組織は月例賃金にこだわる闘いを進め、底上げ・底支えをはかるために、定昇・賃金カーブ維持相当分（約2%）を確保し、過年度物価上昇分はもとより、生産性向上分などを、賃上げ（1%以上）として求める。また、格差是正・配分のゆがみ是正（1%を目安）の要求を掲げ、「底上げ・底支え」



真剣に傾聴する参加者の皆さん